

## 健康科学課

健康科学課は、細菌、ウイルス、臨床（表 1-1）及び理化学に関する試験検査業務と感染症情報センター、並びに研究所の管理運営業務を実施している。

細菌検査では、結核・感染症発生動向調査事業に基づく検査と、食中毒・苦情及び感染症発生時の検査、収去食品、飲料水、プール水、河川水及び浴槽水等の試験検査、並びに調査研究を実施している。

ウイルス検査では、結核・感染症発生動向調査事業に基づく検査と、食中毒及び腸管感染症の発生時の検査、並びに調査研究を実施している。

臨床検査では、三歳児健康診査及び HIV 抗体検査を実施している。

理化学検査では、食品・添加物、及び家庭用品の規格等についての試験検査、食中毒、苦情食品の理化学検査、飲料水及びプール水の水質検査、室内空気中の化学物質検査、並びに調査研究を実施している。

また、試験検査の信頼性確保を目的として、内部精度管理・外部精度管理を実施している。

感染症情報センターでは、結核・感染症発生動向調査事業に基づく感染症情報の収集・管理・分析等を行い、国に報告するとともに、ホームページ上で情報提供・公開(毎週更新)を行っている。

### 1 細菌検査

(1) 結核・感染症発生動向調査事業に基づく検査  
保健所からの依頼により検査を実施した(表 1-2-1)。

腸管出血性大腸菌(EHEC)では 026、0111、0157、血清型不明の届出があり検査を実施した。その結果、血清型不明の一部は 048、0111、0156、0157 と判明した(表 1-2-2)。026 (3 株)、0111 (1 株)、0157 (16 株)については、MLVA 法による遺伝子解析を実施した。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)では、カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌(CPE)として *Enterobacter cloacae* 4 株からカルバペネマーゼ遺伝子(IMP 型)が検出された。その他 *E. cloacae* 3 株から AmpC 型  $\beta$ -ラクタマーゼ遺伝子(EBC 型)が検出された(表 1-2-3)。

ライム病ではイムノブロット法による検査を実施した。また、国立感染症研究所にブルセラ属菌の検査を依頼した。

(2) 食中毒・苦情及び感染症発生時の検査

食中毒・苦情及び感染症発生時の食品、糞便及びふきとり検体等について細菌及び寄生虫の検査を行った(表 1-3)。原因菌等として、黄色ブドウ球菌、カンピロバクター属菌、アニサキス等が検出された。

(3) 収去食品等の検査

食品衛生法に基づく規格基準、食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律施行規則に基づく外部検証における食鳥とたい(食鳥肉)の微

生物試験、千葉市の指導基準及び食品の汚染状況に係る細菌検査を実施した(表 1-4)。

(4) 水質検査

水道法に基づく飲料水、千葉市遊泳用プール指導要綱に基づくプール水及び環境基本法等に基づく事業場排水、河川水、海水の細菌検査を実施した。

また、公衆浴場法及び特定建築物維持管理指導要綱に基づき、浴槽水、冷却塔水等のレジオネラ検査を実施した(表 1-5)。

(5) 腸内細菌検査

保健所等からの依頼により職員及び給食従事者の定期検便等を実施した(表 1-6)。

### 2 ウイルス検査

(1) 結核・感染症発生動向調査事業に基づく検査  
保健所からの依頼により検査を実施した(表 1-7)。

ア 麻しんウイルス及び風しんウイルス検査

保健所から依頼された咽頭ぬぐい液 8 検体、血液 8 検体及び尿 7 検体の計 23 検体について検査を実施した。その結果、麻しんウイルス及び風しんウイルスは検出されなかった。

イ 新型コロナウイルス検査

保健所から依頼された咽頭ぬぐい液 354 検体、鼻咽頭ぬぐい液 2,964 検体、喀痰 22 検体、髄液 2 検体、唾液 19,628 検体及びその他(気切吸引痰 2 検体)の計 22,972 検体について検査を実施した(陰性化確認検査を含む)。その結果、新型コロナウイルスが咽頭ぬぐい液から 45 検体、鼻咽頭ぬぐい液から 521 検体、喀痰から 3 検体、唾液から 3,863 検体から検出された。

ウ その他のウイルス検査

保健所及び病原体定点から依頼された咽頭ぬぐい液、糞便及び髄液等 114 検体について検査を実施した。

エ リケッチア検査

保健所から依頼された血液 4 検体、咽頭ぬぐい液 1 検体、尿 1 検体、痲疲 2 検体、皮膚 1 検体の計 9 検体について検査を実施した。その結果、リケッチア・ジャポニカが血液 1 検体、痲疲 1 検体、皮膚 1 検体から検出された。

(2) 食中毒・苦情及び感染症発生時の検査

食中毒・苦情及び感染症発生時の食品、糞便及び拭き取り検体等について、ノロウイルス及びその他のウイルス検査を実施した。また、ウイルスが検出された一部の検体について遺伝子解析(シーケンス)を実施した(表 1-8)。

### 3 臨床検査

(1) 三歳児健康診査

三歳児健康診査において、尿検査(一次、二次)

を実施した(表 1-9)。一次検査での有所見者(糖・蛋白・潜血反応が±以上、白血球・亜硝酸塩が+以上)を対象に、二次検査を実施した。

(2) HIV抗体検査

特定感染症検査等事業に係る HIV 抗体検査は、依頼がなかったことから実施しなかった。

表 1-1 2021 年度 健康科学課(細菌・寄生虫・ウイルス・臨床)検査実施状況

		検 体 数
細菌	結核・感染症発生動向調査事業	148
	食中毒・苦情及び感染症発生時(寄生虫を除く)	331
	収去食品等	134
	水質検査	825
	腸内細菌検査	149
寄生虫	食中毒・苦情及び感染症発生時	2
ウイルス	結核・感染症発生動向調査事業	23,118
	食中毒・苦情及び感染症発生時	360
臨床	三歳児健康診査(尿検査)	6,800
	HIV 抗体検査	0
総 計		31,867

表 1-2-1 2021 年度 結核・感染症発生動向調査事業に基づく細菌検査実施状況

検 査 項 目	検 体 数
赤痢菌	-
チフス菌	-
コレラ菌	-
EHEC	128
CRE	13
ライム病	4
ブルセラ属菌(依頼)	1
レジオネラ属菌	2
計	148

表 1-2-2 2021 年度 EHEC 検査実施状況(再掲)

血 清 型	検 体 数
026	9
048	4
0111	6
0156	1
0157	106
型不明	2
計	128

表 1-2-3 2021 年度 CRE 検査実施状況(再掲)

菌 種	検 体 数	検出遺伝子数(型)
<i>Enterobacter cloacae</i>	8	4 (IMP) 3 (EBC)
<i>Klebsiella aerogenes</i>	5	-
計	13	7

表 1-3 2021 年度 食中毒・苦情及び感染症発生時の細菌検査実施状況(寄生虫を含む)

区 分		総数	食品	糞便	ふきとり	水	虫体	その他
検 体 数		333	34	150	147	-	2	0
項 目 数		4,953	510	2,236	2,205	-	2	0
検 査 項 目	生菌数	-	-	-	-	-	-	-
	大腸菌群	-	-	-	-	-	-	-
	E. coli	-	-	-	-	-	-	-
	ビブリオ属菌	330	34	149	147	-	-	-
	黄色ブドウ球菌	330	34	149	147	-	-	-
	サルモネラ属菌	330	34	149	147	-	-	-
	カンピロバクター	331	34	150	147	-	-	-
	腸管出血性大腸菌	330	34	149	147	-	-	-
	病原大腸菌	330	34	149	147	-	-	-
	セレウス菌	330	34	149	147	-	-	-
	ウェルシュ菌	330	34	149	147	-	-	-
	エルシニア	330	34	149	147	-	-	-
	エロモナス	330	34	149	147	-	-	-
	プレジオモナス	330	34	149	147	-	-	-
	赤痢菌	330	34	149	147	-	-	-
	コレラ菌	330	34	149	147	-	-	-
	チフス菌	330	34	149	147	-	-	-
	パラチフス菌	330	34	149	147	-	-	-
寄生虫	2	-	-	-	-	2	-	
検 出 状 況	黄色ブドウ球菌	33	6	26	1	-	-	-
	(再掲) コアグラーゼⅡ	1	-	1	-	-	-	-
	コアグラーゼⅢ	2	-	2	-	-	-	-
	コアグラーゼⅣ	1	-	1	-	-	-	-
	コアグラーゼⅤ	2	-	2	-	-	-	-
	コアグラーゼⅥ	2	-	2	-	-	-	-
	コアグラーゼⅦ	10	6	4	-	-	-	-
	(再掲) エンテロトキシン B(+)	1	-	1	-	-	-	-
	エンテロトキシン AB(+)	7	6	1	-	-	-	-
	<i>Campylobacter jejuni</i>	15	-	15	-	-	-	-
	セレウス菌	15	2	9	4	-	-	-
	(再掲) 下痢性毒素(+)	1	1	-	-	-	-	-
	嘔吐毒遺伝子(+)	2	2	-	-	-	-	-
	ウェルシュ菌	5	-	5	-	-	-	-
	<i>Anisakis simplex</i>	2	-	-	-	-	2	-

表 1-4 2021 年度 収去食品等の細菌検査実施状況

項目 分類	検体数	細菌検査項目														項目数					
		細菌数	腸内細菌科細菌	大腸菌群	E.coli最確数	E.coli	乳酸菌数	ビブリオ属菌	腸炎ビブリオ最確数	黄色ブドウ球菌	サルモネラ属菌	カンピロバクター	腸管出血性大腸菌	セレウス菌	ウエルシユ菌		リステリア	クロストリジウム属菌	恒温試験	細菌試験	抗生物質
総数	134	83	30	63	3	16	-	51	3	28	11	6	8	3	-	-	-	5	5	-	315
魚介類	7	3	-	1	3	-	-	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
冷凍食品 (無加熱摂取)	5	5	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
冷凍食品 (凍結前加熱)	7	7	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
冷凍食品 (凍結前未加熱)	2	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
魚介類加工品	13	3	-	13	-	-	-	18	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	37
肉卵類及び その加工品	46	32	30	3	-	-	-	-	-	2	11	6	-	-	-	-	-	-	-	-	84
乳製品	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
アイスクリーム類	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
水菓	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
穀類及び その加工品	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	3
野菜類・果実及び その加工品	29	16	-	15	-	14	-	30	-	11	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	91
菓子類	15	15	-	15	-	-	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	45
清涼飲料水	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
牛乳	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
加工乳(3%未満)	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
その他の食品	8	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	5	5	-	14

表 1-5 2021 年度 水質細菌検査実施状況

項目 分類	検体数	細菌検査項目							項目数	
		一般細菌	嫌気性芽胞菌	大腸菌	大腸菌群	大腸菌群数	大腸菌群数 (最確数)	EHEC O157		レジオネラ
飲料水										
水道原水	127	4	105	123	-	-	-	-	-	232
水道水	233	233	-	233	-	-	-	-	-	466
井戸水	185	184	1	184	-	-	-	-	-	369
小計	545	421	106	540	-	-	-	-	-	1,067
プール水	12	12	-	-	12	-	-	-	-	24
事業場排水	42	-	-	-	-	42	-	-	-	42
河川水、海水	134	-	-	-	-	-	132	2	-	134
浴槽水、冷却塔水等	92	-	-	-	-	-	-	-	92	92
総数	825	433	106	540	12	42	132	2	92	1,359



表 1-8 2021 年度 食中毒・苦情及び感染症発生時のウイルス検査実施状況

		食品	糞便	吐物	拭き取り	その他	計
検 体 数	食中毒	34	99	-	124	-	257
	感染症	-	103	-	-	-	103
	計	34	202	-	124	-	360
項 目 別 検 体 数	ノロウイルス	34	202	-	124	-	360
	その他のウイルス(※)	34	202	-	124	-	360
	遺伝子解析	-	25	-	-	-	25
	計	68	429	-	248	-	745
検 出 状 況	ノロウイルス G I	-	-	-	-	-	-
	ノロウイルス G II	-	79	-	-	-	79
	サポウイルス	-	12	-	-	-	12
	アストロウイルス	-	2	-	-	-	2
	ロタウイルス	-	-	-	-	-	-
	アデノウイルス	-	-	-	-	-	-

(※) その他のウイルス：サポウイルス、アストロウイルス、ロタウイルス及びアデノウイルス

表 1-9 2021 年度 三歳児健康診査

検 査 項 目		区 分	総 数	内 訳	
				一 次	二 次
尿	糖		6,800	6,266	534
	蛋白		6,800	6,266	534
	潜血反応		6,800	6,266	534
	白血球		6,800	6,266	543
	亜硝酸塩		6,800	6,266	534
	比重		6,266	6,266	-
	沈渣		534	-	534

## 4 理化学検査

保健所等からの依頼により検査を実施した。2021年度は2020年度に続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、検査依頼数が減少した。また、依頼がなかったことから乳等規格等の食品規格検査、重金属検査及び自然毒検査、並びに室内空気中の化学物質検査は実施しなかった。

### (1) 食品等検査

検査総数は、食品等 97 検体、4,644 項目であった。

#### ア 添加物等検査

収去・買上検査として、甘味料 70 項目、着色料 411 項目、保存料 38 項目、漂白剤・殺菌剤 2 項目、発色剤 8 項目、防ばい剤 2 項目、合計 531 項目の検査を実施した(表 1-11-1)。

#### イ 農産物等の残留農薬検査

収去・買上検査として、24 検体 4,030 項目、学校給食食材 11 検体 11 項目、全体として 179 種類の農薬について、合計 35 検体 4,041 項目の検査を実施した(表 1-11-1、表 1-11-2-1～3)。

#### ウ 畜水産物中の残留動物用医薬品検査

食肉(豚肉・鶏肉) 5 検体 47 項目(うち 2 検体 2 項目は学校給食食材)、魚介類(生食用カキ) 3 検体 3 項目、全体として 23 種類の動物用医薬品について合計 8 検体 50 項目の検査を実施した(表 1-11-1、表 1-11-3)。

#### エ 食品中の放射性物質検査

東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性物質による汚染状況を把握するため、流通食品 10 検体、2 種類の放射性物質(セシウム 134、セシウム 137)について合計 20 項目の検査を実施した(表 1-11-1、表 1-11-4)。

#### オ その他

魚介類について、ヒスタミン 2 項目の検査を実施した(表 1-11-1)。

### (2) 家庭用品の規格検査

「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づき、ホルムアルデヒド等 8 項目について繊維製品 11 種 28 検体 46 項目、家庭用化学製品 2 種 3 検体 8 項目、合計 13 種 31 検体 54 項目の検査を実施した(表 1-12)。

### (3) 飲料水等及び遊泳用プール水の水質検査

水道法の「水質基準に関する省令」に基づき、51 基準項目(31 健康項目+20 性状項目)、及び「千葉市遊泳用プール指導要綱」に基づきプール水の検査を実施した。

検査件数は 601 件で、このうち飲料水等の水質検査は 588 件、プール水は 13 件であった(表 1-13-1)。

自家用井戸水の検査件数 187 件中 54 件(28.9%)で不適項目があった(表 1-13-2)。必須項目検査を実施した自家用井戸水(187

件)の検査結果を区別、項目別に集計した(表 1-13-3)。

検査を実施した飲料水等の検査項目別理化学検査の検体数と不適合数を集計した(表 1-13-4)。

プール水検査状況を集計した(表 1-13-5)。





表 1-11-2-1 2021年度 農作物等の残留農薬検査（検体種別 収去・買上検査）

分 類	検 体 種	検体数	項目数
果実	いちご	1	160
穀類	小麦粉	5	820
野菜	かぼちゃ	1	161
	キャベツ	3	516
	こまつな	2	340
	さといも	1	156
	サラダ菜	1	170
	セロリ	1	170
	だいこん	1	173
	にら	1	173
	にんじん	2	348
	ねぎ	2	346
	ブロッコリー	1	170
	ほうれんそう	2	327
	合 計	24	4,030

表 1-11-2-2 2021年度 農作物等の残留農薬検査（検体種別 学校給食食材）

分 類	検 体 種	検体数	項目数
野菜	キャベツ	1	1
	きゅうり	1	1
	こまつな	2	2
	たまねぎ	1	1
	チンゲン菜	1	1
	トマト	1	1
	にら	1	1
	ねぎ	1	1
	ピーマン	1	1
	レタス	1	1
	合 計	11	11

表 1-11-2-3 2021年度 農作物等の残留農薬検査（農薬別 収去・買上、学校給食食材検査数）

農薬名	検査数	農薬名	検査数	農薬名	検査数
EPN	24	ゾキサミド	23	フルチアセツトメチル	23
アクリナトリン	24	ターバシル	24	フルトラニル	24
アザコナゾール	24	ダイアジノン	24	フルバリネート	24
アジンホスメチル	22	チオベンカルブ	24	フルフェノクスロン	16
アセトクロール	24	ディルドリン	24	フルフェンピルエチル	24
アトラジン	24	テトラクロルビンホス	24	フルミオキサジン	23
アラクロー	24	テトラコナゾール	24	フルマイクロラックペンチル	23
アルジカルブ	16	テトラジホン	24	プレチラクロー	24
イサゾホス	24	テニルクロー	24	プロシミドン	24
イソキサチオン	24	テブコナゾール	24	プロチオホス	24
イソフェンホス	24	テブフェノジド	16	プロパクロー	24
イプロバリカルブ	16	テブフェンピラド	24	プロバジン	24
イプロベンホス	24	テフルトリン	24	プロパニル	24
ウニコナゾールP	24	テフルベンズロン	16	プロパホス	18
エスプロカルブ	24	デルタメトリン	23	プロピコナゾール	24
エタルフルラリン	24	テルプトリン	17	プロビザミド	24
エチオン	24	テルブホス	24	プロヒドロロジヤスモン	11
エディフェンホス	24	トラロメトリン	23	プロフェノホス	24
エトキサゾール	24	トリアゾホス	24	プロマシル	17
エトフェンプロックス	23	トリアレート	24	プロメトリン	24
エトフメセート	24	トリシクラゾール	23	プロモプロピレート	24
エトプロホス	24	トリフルラリン	24	プロモホス	24
エンドリン	12	トリフロキシストロビン	24	プロモホスエチル	24
オキサジアゾン	24	トルクロホスメチル	24	ヘキサクロロベンゼン	1
オキサミル	16	ニトタールイソプロピル	24	ベナラキシル	24
オキシフルオルフェン	17	パクロブトラゾール	24	ベノキサコール	24
カズサホス	24	パラチオン	24	ヘプタクロル	24
カフェンストロール	23	パラチオンメチル	24	ベルタン	24
カルバリル	16	ハルフェンプロックス	24	ベルメトリン	23
カルフェントラゾンエチル	24	ピコリナフェン	24	ペンコナゾール	24
キナルホス	24	ピフェノックス	24	ベンダイオカルブ	16
キノキシフェン	24	ビフェントリン	14	ベンディメタリン	24
キノクラミン	24	ピペロホス	24	ベンフルラリン	24
キントゼン	18	ピラクロホス	22	ベンフレセート	24
クロマゾン	24	ピラゾホス	24	ホサロン	24
クロルタルジメチル	24	ピラフルフェンエチル	20	ホスメット	24
クロルデン	24	ピリダフェンチオン	23	ホレート	24
クロルピリホス	35	ピリフェノックス	24	マラチオン	23
クロルピリホスメチル	24	ピリプチカルブ	24	マイクロブタニル	24
クロルフェナビル	24	ピリプロキシフェン	24	メチダチオン	24
クロルフェンソン	24	ピリミカーブ	16	メトキシクロー	24
クロルフルアズロン	16	ピリミノバックメチル	23	メトラクロー	23
クロルプロファム	24	ピリミホスメチル	24	メフェナセツト	24
クロルベンシド	24	ピリメタニル	24	メフェンピルジエチル	24
クロルベンジレート	24	ピロキロン	24	メプロニル	24
シアノホス	24	ピンクロゾリン	24	ルフェヌロン	16
ジクロシメット	23	フィプロニル	24	レナシル	24
ジクロフェンチオン	24	フェナリモル	24		
ジクロホップメチル	24	フェントロチオン	24		
ジクロラン	24	フェノチオカルブ	24		
ジスルホトン	22	フェノブカルブ	16		
ジニドンエチル	23	フェンクロルホス	24		
シハロトリン	24	フェンスルホチオン	24		
シハロホップブチル	24	フェンチオン	24		
ジフェナミド	24	フェントエート	24		
ジフェノコナゾール	22	フェンバレレート	24		
シフルトリン	24	フェンプロパトリン	24		
ジフルフェニカン	24	フェンプロピモルフ	24		
ジフルベンズロン	16	フサライド	24		
シプロコナゾール	24	ブタクロー	24		
シベルメトリン	24	ブタミホス	24		
ジメテナミド	24	ブプロフェジン	24		
ジメトエート	6	フラムプロップメチル	24		
シメトリン	24	フルアクリピリム	17		
ジメピベレート	24	フルキンコナゾール	24		
スピロジクロフェン	7	フルシトリネート	23		
				合計	4,041

表 1-11-3 2021 年度 畜水産物中の残留動物用医薬品検査

検体名 項目名	牛乳	生乳	鶏卵	牛肉	豚肉	鶏肉	アユ	マダイ	コイ	ニジマス	ウナギ	ヒラメ	クルマエビ	ブリ	スズキ	生食用カキ	総計
	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
オキシテトラサイクリン	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	5
クロルテトラサイクリン	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
テトラサイクリン	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
スピラマイシン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
スルファメラジン	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
スルファジミジン	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
スルファモノメトキシシ	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
スルファジメトキシシ	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
スルファキノキサリン	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
スルファジアジン	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
スルファチアゾール	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
スルファドキシシ	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
スルファメトキサゾール	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
オキノリン酸	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
チアンフェニコール	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
オルメトプリム	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
チアベンダゾール	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
フルベンダゾール	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
トリメトプリム	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
5-プロピルスルホニル -1H-ベンズイミダゾール -2-アミン	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
レバミゾール	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
オフロキサシ	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
オルビロキサシ	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
項目数	0	0	0	0	2	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	50

表 1-11-4 2021 年度 放射性物質検査

対象食品	検体数	依頼元
流通食品	10	保健所（食品安全課）
保育所給食 食 材	0	こども未来局（幼保運営課）
学校給食 食 材	0	教育委員会（保健体育課）
合 計	10	

表 1-12 2021 年度 家庭用品検査

項目名 検体名		ホルムアルデヒド			容器試験						項目数合計	検体数合計	
		生後二十四ヶ月以下の乳幼児用	左記を除くもの	小計	有機水銀	ダイルドリン	水酸化カリウム・水酸化ナトリウム	メタノール	テトラクロロエチレン	トリクロロエチレン			
試験検査数		24	2	26	16	4	1	0	3	3	1	54	31
基準違反数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
織 維 製 品	おしめ	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	2	1
	おしめカバー	2	-	2	2	-	-	-	-	-	-	4	2
	よだれ掛け	2	-	2	2	-	-	-	-	-	-	4	2
	下着	7	-	7	7	-	-	-	-	-	-	14	7
	中衣	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
	外衣	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	2
	手袋	-	2	2	2	2	-	-	-	-	-	6	2
	くつした	2	-	2	2	-	-	-	-	-	-	4	2
	帽子	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	3	3
	衛生パンツ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
	寝衣	4	-	4	-	-	-	-	-	-	-	4	4
	寝具	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1
家庭用毛糸	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2	2	
小計		24	2	26	16	4	0	0	0	0	0	46	28
家庭用化学製品	家庭用接着剤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
	くつしたどめ等接着剤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
	家庭用エアゾル製品	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	4	2
	家庭用洗剤	-	-	-	-	-	1	-	1	1	1	4	1
小計		0	0	0	0	0	1	0	3	3	1	8	3

表 1-13-1 2021 年度 飲料水等及びプール水の検査種別件数

検体名	検査種別	一般依頼件数	保健所依頼件数	合計
飲料水等	全項目検査	9	0	9
	省略不可能項目検査	58	0	58
	必須項目検査	331	10	341
	有機塩素系検査	0	0	0
	給水設備関連項目検査	10	0	10
	消毒副生成物検査	6	0	6
	原水項目検査	4	0	4
	単項目検査（細菌検査を含む）	160	0	160
	小 計	578	10	588
プール水		13	0	13
	合 計	591	10	601

表 1-13-2 2021 年度 飲料水等の検体種別検査結果

検体種別	検査件数	適合件数	不適合件数	不適合率 (%)
自家用井戸水	187	133	54	28.9
専用水道原水	90	89	1	1.1
専用水道浄水	232	232	0	0.0
小規模専用水道原水	19	8	11	57.9
小規模専用水道浄水	16	16	0	0.0
簡易専用水道水	21	21	0	0.0
その他	23	23	0	0.0
合 計	588	522	66	11.2

表 1-13-3 2021 年度 自家用井戸水における区別必須項目検査結果

項目 区名	検査 件数	不 適合 数	不 適合 率 (%)	項 目 別 不 適 合 数									
				一般 細菌	大腸 菌	亜硝酸 態窒素	硝酸・ 亜硝酸 態窒素	塩素 イオン	有機 物	pH 値	臭気	色度	濁度
中央区	22	7	31.8	4	1	-	2	-	-	-	1	-	-
花見川区	21	8	38.1	2	-	-	6	-	-	-	1	-	-
稲毛区	19	5	26.3	2	1	-	3	-	-	-	-	-	-
若葉区	72	19	26.4	14	2	-	5	-	-	-	-	-	1
緑区	50	13	26.0	4	2	5	2	-	-	-	-	1	1
美浜区	2	1	50.0	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉市外	1	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
合 計	187	54	28.9	27	6	5	18	0	0	0	2	2	2

表 1-13-4 2021 年度 項目別飲料水等理化学検査

		検体数	不適合数	不適合率(%)
健康 に 関 す る 項 目	カドミウム及びその化合物	13	0	-
	水銀及びその化合物	13	0	-
	セレン及びその化合物	13	0	-
	鉛及びその化合物	23	0	-
	ヒ素及びその化合物	20	0	-
	六価クロム化合物	13	0	-
	亜硝酸態窒素	422	5	1.2
	シアン化物イオン及び塩化シアン	77	0	-
	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	422	18	4.3
	フッ素及びその化合物	13	0	-
	ホウ素及びその化合物	13	0	-
	四塩化炭素	13	0	-
	1,4-ジオキサン	13	0	-
	シス1,2-ジクロロエチレン及びトランス1,2-ジクロ ロエチレン	13	0	-
	ジクロロメタン	13	0	-
	テトラクロロエチレン	13	0	-
	トリクロロエチレン	13	0	-
	ベンゼン	13	0	-
	塩素酸	73	0	-
	クロロ酢酸	73	0	-
	クロロホルム	73	0	-
	ジクロロ酢酸	73	0	-
	ジブロモクロロメタン	73	0	-
	臭素酸	73	0	-
	総トリハロメタン	73	0	-
	トリクロロ酢酸	73	0	-
	ブロモジクロロメタン	73	0	-
	ブロモホルム	73	0	-
ホルムアルデヒド	73	0	-	
性 状 に 関 す る 項 目	亜鉛及びその化合物	23	0	-
	アルミニウム及びその化合物	14	1	7.1
	鉄及びその化合物	35	0	-
	銅及びその化合物	23	0	-
	ナトリウム及びその化合物	13	0	-
	マンガン及びその化合物	37	0	-
	塩化物イオン	422	0	-
	カルシウム、マグネシウム等(硬度)	16	0	-
	蒸発残留物	23	0	-
	陰イオン界面活性剤	13	0	-
	ジェオスミン	13	0	-
	2-メチルイソボルネオール	13	0	-
	非イオン界面活性剤	13	0	-
	フェノール類	13	0	-
	有機物(全有機炭素(TOC)の量)	422	0	-
	pH値	422	0	-
臭気	422	3	0.7	
色度	422	2	0.5	
濁度	422	3	0.7	
	合 計	4,717	32	

表 1-13-5 2021 年度 プール水検査

検査項目	検体数
pH値	12
濁度	12
有機物等（過マンガン酸カリウム消費量）	12
総トリハロメタン	1
合計	37

## 5 精度管理

試験検査の信頼性確保を目的として、精度管理を実施した（表 1-14-1）。

また、試験検査及び使用する機器類の保守点検は、「標準作業書」に基づき実施した。「標準作業書」は常に見直し、必要な改訂を実施した。

### (1) 細菌検査

#### ア 内部精度管理

検査精度確認のため、生菌数検査を年 5 回実施した。

#### イ 外部精度管理

- (7) 令和 3 年度厚生労働科学研究補助金健康安全・危機管理対策総合研究事業「公衆浴場における検査・消毒方法等の衛生管理手法の開発のための研究」における「レジオネラ属菌検査外部精度管理調査」に参加した。
- (4) 第三者機関である一般財団法人食品薬品安全センターから送付された検体について、微生物学的検査（大腸菌群検査）を実施した。

### (2) ウイルス検査

#### ア 外部精度管理

- (7) 国立感染症研究所が実施する厚生労働省外部精度管理事業（令和 3 年度）「課題 2 新型コロナウイルスの核酸検出検査」に参加した。

- (4) 国立感染症研究所が実施する「インフルエンザウイルス分離培養・亜型同定技術実態調査（iTips 2021）」に参加した。

### (3) 理化学検査

内部精度管理は検査試行毎の精度確認として、外部精度管理は、擬似食品等の測定値を他の参加検査施設と比較することにより実施した（表 1-14-2）。

#### ア 食品等検査

##### (7) 内部精度管理

試験品の検査頻度に応じ、検査項目ごとに添加回収試験を実施した。

##### (4) 外部精度管理

第三者機関である一般財団法人食品薬品安全センターから送付された 3 検体 5 項目について検査を実施した。

#### イ 飲料水等検査

##### (7) 内部精度管理

約 10 試料ごと及び全ての試験終了後に一定濃度の標準試料について試験を行い、測定が規定値内であることを確認した。

##### (4) 外部精度管理

千葉県水道水質管理連絡協議会及び厚生労働省が実施する外部精度管理に参加し、5 検体 6 項目について実施した。

表 1-14-1 精度管理

検体種別	根拠規程
感染症の患者の検体等	千葉県病原体等検査業務要領
千葉県食品衛生監視指導計画に基づく収去食品等	千葉県食品衛生検査施設における検査等の業務管理要領
千葉県家庭用品監視指導要領に基づく検体	千葉県家庭用品監視指導要領
飲料水等	水質基準に関する省令の規定に基づき厚生労働大臣が定める方法（平成 15 年厚生労働省告示第 261 号）

表 1-14-2 2021 年度 理化学検査における精度管理

	内部精度管理		外部精度管理		
	頻 度	内 容	検体数 項目数	内 容	実施機関
食品等	検査 実施毎	添加回収試験	3 検体 5 項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シロップ中のソルビン酸の定量</li> <li>・にんじんペースト中の 6 種農薬中 3 種農薬の定性・定量</li> <li>・鶏肉（むね）ペースト中のスルファジミジンの定量</li> </ul>	一般財団法人食品薬品安全センター
飲料水		約 10 試料ごと及び全ての試験終了後の標準試料測定	2 検体 2 項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンガン及びその化合物</li> <li>・ジクロロ酢酸</li> </ul>	千葉県水道水質管理連絡協議会 (水質検査精度管理委員会)
			3 検体 4 項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塩素酸</li> <li>・四塩化炭素</li> <li>・テトラクロロエチレン</li> <li>・トリクロロエチレン</li> </ul>	厚生労働省



## 6 感染症情報センター

感染症情報センターは、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（以下「感染症法」という。）に基づく「感染症発生動向調査事業実施要綱」の規定により、多様な感染症の発生及びまん延を防止し、適切な感染症対策を立案することを目的に、感染症の発生情報の把握と分析、及び病原体情報の収集、分析を行い、その結果を国に報告するとともに、保健所、医療機関等の関係者への還元・提供、ホームページで公開している。

事業は年単位（毎年1月から12月まで）で実施しているが、冬期に流行するインフルエンザについてはシーズン単位（第36週（9月）から翌年の第35週（8月）まで）で集計・解析している。

2021年の感染症発生動向調査の対象感染症は、全数把握対象感染症が91疾患（2月12日までは90疾患）（一類7疾患、二類7疾患、三類5疾患、四類44疾患、五類の一部24疾患、及び新型インフルエンザ等感染症4疾患（2月12日までは新型インフルエンザ等感染症2疾患並びに指定感染症1疾患）、定点把握対象感染症が25疾患（五類の一部24疾患及び疑似症）となっている。調査対象感染症一覧（表1-15）。

### （1）全数把握対象感染症の発生状況

全数把握感染症の月別届出数（表1-16）、及び過去5年の年別届出数（表1-17）。

概要は次のとおり。

#### ア 二類感染症

##### （7）結核

届出数は133例で継続して減少。無症状病原体保有者の割合は2017年から2020年までは増加傾向だが（2019年（54例32.3%）、2020年（50例32.3%）、2021年（34例25.6%）は減少（図1-1-1）。男性72例（54.1%）、女性61例（45.9%）、年齢中央値は全体で67歳、男性は68歳、女性は65歳（図1-1-2）。

#### イ 三類感染症

##### （7）腸管出血性大腸菌感染症

届出数は24例で2020年より増加（図1-2-1）。溶血性尿毒症症候群（HUS）の発症は1例。男性9例（37.5%）、女性15例（62.5%）、年齢中央値は33歳で、20歳代で最多（8例33.3%）（図1-2-2）。

#### ウ 四類感染症

##### （7）E型肝炎

届出数は4例で2020年と同数。患者が2例、無症状病原体保有者が2例。男性3例、女性1例で、20歳代及び50歳代が各1例、70歳代が2例。感染経路は、2例は経口感染（推定）、2例は不明。

##### （4）つつが虫病

届出数は1例で2018年以降の届出。感染経路は、県内で野外活動中に刺されたことによるものと推定。

##### （ウ）日本紅斑熱

届出数は1例で、2020年から継続しての届出。

##### （イ）レジオネラ症

届出数は13例で2020年と同数。病型は全て肺炎型（図1-3-1）。男性10例（76.9%）、女性3例（23.1%）、全て40歳代以上で、年齢中央値は70歳（図1-3-2）。

#### エ 五類感染症

##### （7）アメーバ赤痢

届出数は3例。男性2例、女性1例で、50歳代が2例、70歳代が1例。病型は全て腸管アメーバ症（図1-4）。

##### （4）ウイルス性肝炎

届出数は4例で2020年と同数。男性3例、女性1例で、年齢階級別では20歳代が2例、30歳代及び70歳代が各1例。病型はB型が3例、サイトメガロウイルスが1例（図1-5）。

##### （ウ）カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

届出数は15例で2020年より増加。男性11例（73.3%）、女性4例（26.7%）、年齢中央値は66歳（図1-6-1）。菌検出は、通常無菌的であるべき検体から4例（26.7%：*Enterobacter cloacae* 3例、*Klebsiella aerogenes* 1例）、通常無菌的ではない検体から11例（73.3%：*E. cloacae* 7例、*K. aerogenes* 4例）（図1-6-2、図1-6-3）。

##### （イ）急性脳炎

届出数は11例で2020年とほぼ同数。10歳未満で全体の90.9%（10例）。男性4例（36.4%）、女性7例（63.6%）（図1-7）。

##### （オ）クロイツフェルト・ヤコブ病

届出数は5例。男性3例、女性2例で、70歳以上で全体の80.0%（4例）（図1-8）。病型は古典型クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）が4例、家族性CJDが1例。

##### （カ）劇症型溶血性レンサ球菌感染症

届出数は4例で2020年と同数。男女各2例で、60歳代が1例、70歳代が3例。病原体の血清群は、A群1例、G群3例（図1-9）。

##### （キ）ジアルジア症

届出数は1例で2018年以降の届出。感染経路は不明。

##### （ク）侵襲性肺炎球菌感染症

届出数は10例で2020年より増加（図1-10-1）。男性3例、女性7例で、60歳代が最も多く4例、次いで0歳代が3例（図1-10-2）。

##### （ケ）梅毒

届出数は48例で2020年より増加し、過去5年で最多。病型は、早期顕症梅毒（I期）9例（18.7%）、早期顕症梅毒（II期）19例（39.6%）、晩期顕症梅毒5例（10.4%）、無症状病原体保有者15例（31.3%）（図1-11-1）。男性25例（52.1%）、女性23例（47.9%）。年齢中央値は全体40歳、男性52歳、女性26歳（図1-11-2）。

(コ) 百日咳

届出数は1例。10歳代でワクチン既接種。

(ク) 風しん

届出数は1例で、60歳代女性。

オ 指定感染症及び新型コロナウイルス感染症

(7) 新型コロナウイルス感染症

令和3年2月13日の感染症法改正施行により、「指定感染症」から「新型コロナウイルス感染症」に分類が変更。届出数は16,421例。月別の届出数は、1月及び8月に2回のピークがあり、8月が最多で7,380例(44.9%) (図1-12-1)。男性9,082例(55.3%)、女性7,339例(44.7%)、年齢中央値は34歳、年齢階級別では20歳代4,189例(25.5%)、30歳代2,711例(16.5%)、40歳代2,689例(16.4%) (図1-12-2)。月別届出数における年齢群別の割合は、20歳未満は1月から12月にかけて暫時増加、60歳以上は7月に減少するも再び増加、これら以外の年代ではほぼ横ばいで推移した (図1-12-3)。類型別では、患者14,445例(87.97%)、無症状病原体保有者1,963例(11.95%)、疑似症患者7例(0.04%)、死亡者6例(0.04%)。患者14,445例中の年齢階級別の割合は、20歳代3,854例(26.7%)、30歳代2,446例(16.9%)、40歳代2,408例(16.7%) (図1-12-4)。無症状病原体保有者1,963例中の年齢階級別の割合は20歳代332例(16.9%)、40歳代280例(14.3%)、0歳代279例(14.2%) (図1-12-5) (令和4年9月1日現在HER-SYSからの抽出)。

(イ) 突発性発しん

報告数(年平均)は0.53/定点で2020年(0.59/定点)より減少(過去10年の平均は0.65/定点) (図2-1)。

(ロ) インフルエンザ

(2021年36週から2022年35週)

報告数は2022年第6週に1例(過去10年の報告数の平均は7,573.4例、5.27/定点) (図2-2)。

(2) 定点把握対象の感染症

定点把握感染症(小児科)報告数の年別推移(図2-1)、定点把握感染症(インフルエンザ)報告数のシーズン別推移及び型別迅速診断結果(図2-2)、定点把握感染症(眼科)報告数の年別推移(図2-3)、定点把握性感染症の月別報告数(表1-18)、定点把握感染症(基幹)報告数の年別推移(図2-4)、並びに基幹定点把握感染症の月別報告数(表1-19)。定点把握感染症(小児科、インフルエンザ、眼科)は、一部を除き報告数が大幅に減少。概要は次のとおり。

ア 五類感染症

(7) RSウイルス感染症

報告数(年平均)は0.45/定点で例年より増加(過去10年の平均は0.24/定点)。報告は第24週から急増し、過去5年で最も早い第27週に、2004年の調査開始以来最大のピーク(3.0/定点)となった(図2-1)。

(イ) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数(年平均)は0.38/定点で2020年(0.98/定点)より減少(過去10年の平均は2.00/定点) (図2-1)。

(ロ) 感染性胃腸炎

報告数(年平均)は2.39/定点で2020年(2.10/定点)より増加(過去10年の平均は5.60/定点)。報告数は、例年とほぼ同時期の第51週(8.0/定点)にピークとなった(図2-1)。

表1-15 調査対象感染症一覧（2021年2月13日施行）

No	感染症 類型	対象感染症	届出方法		届出対象		
			種別	時期	患者	疑似症 患者	無症状病原 体保有者
1	一類	エボラ出血熱	全数	直ちに	○	○	○
2		クリミア・コンゴ出血熱	全数	直ちに	○	○	○
3		痘そう	全数	直ちに	○	○	○
4		南米出血熱	全数	直ちに	○	○	○
5		ペスト	全数	直ちに	○	○	○
6		マールブルグ病	全数	直ちに	○	○	○
7		ラッサ熱	全数	直ちに	○	○	○
8	二類	急性灰白髄炎	全数	直ちに	○		○
9		結核	全数	直ちに	○	○	○
10		ジフテリア	全数	直ちに	○		○
11		重症急性呼吸器症候群 *1	全数	直ちに	○	○	○
12		中東呼吸器症候群 *2	全数	直ちに	○	○	○
13		鳥インフルエンザ（H5N1）	全数	直ちに	○	○	○
14		鳥インフルエンザ（H7N9）	全数	直ちに	○	○	○
15	三類	コレラ	全数	直ちに	○		○
16		細菌性赤痢	全数	直ちに	○		○
17		腸管出血性大腸菌感染症	全数	直ちに	○		○
18		腸チフス	全数	直ちに	○		○
19		パラチフス	全数	直ちに	○		○
20	四類	E型肝炎	全数	直ちに	○		○
21		ウエストナイル熱 *3	全数	直ちに	○		○
22		A型肝炎	全数	直ちに	○		○
23		エキノコックス症	全数	直ちに	○		○
24		黄熱	全数	直ちに	○		○
25		オウム病	全数	直ちに	○		○
26		オムスク出血熱	全数	直ちに	○		○
27		回帰熱	全数	直ちに	○		○
28		キャサヌル森林病	全数	直ちに	○		○
29		Q熱	全数	直ちに	○		○
30		狂犬病	全数	直ちに	○		○
31		コクシジオイデス症	全数	直ちに	○		○
32		サル痘	全数	直ちに	○		○
33		ジカウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
34		重症熱性血小板減少症候群 *4	全数	直ちに	○		○
35		腎症候性出血熱	全数	直ちに	○		○
36		西部ウマ脳炎	全数	直ちに	○		○
37		ダニ媒介脳炎	全数	直ちに	○		○
38		炭疽	全数	直ちに	○		○
39		チクングニア熱	全数	直ちに	○		○
40		つつが虫病	全数	直ちに	○		○
41		デング熱	全数	直ちに	○		○
42		東部ウマ脳炎	全数	直ちに	○		○
43		鳥インフルエンザ *5	全数	直ちに	○		○
44		ニパウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
45		日本紅斑熱	全数	直ちに	○		○
46		日本脳炎	全数	直ちに	○		○
47		ハンタウイルス肺症候群	全数	直ちに	○		○

No	感染症 類型	対象感染症	届出方法		届出対象		
			種別	時期	患者	擬似症 患者	無症状病原 体保有者
48	四類	Bウイルス病	全数	直ちに	○		○
49		鼻疽	全数	直ちに	○		○
50		ブルセラ症	全数	直ちに	○		○
51		ベネズエラウマ脳炎	全数	直ちに	○		○
52		ヘンドラウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
53		発しんチフス	全数	直ちに	○		○
54		ボツリヌス症	全数	直ちに	○		○
55		マラリア	全数	直ちに	○		○
56		野兔病	全数	直ちに	○		○
57		ライム病	全数	直ちに	○		○
58		リッサウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
59		リフトバレー熱	全数	直ちに	○		○
60		類鼻疽	全数	直ちに	○		○
61		レジオネラ症	全数	直ちに	○		○
62		レプトスピラ症	全数	直ちに	○		○
63		ロッキー山紅斑熱	全数	直ちに	○		○
64	五類	アメーバ赤痢	全数	7日以内	○		
65		ウイルス性肝炎 *6	全数	7日以内	○		
66		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	全数	7日以内	○		
67		急性弛緩性麻痺 *7	全数	7日以内	○		
68		急性脳炎 *8	全数	7日以内	○		
69		クリプトスポリジウム症	全数	7日以内	○		
70		クロイツフェルト・ヤコブ病	全数	7日以内	○		
71		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	全数	7日以内	○		
72		後天性免疫不全症候群	全数	7日以内	○		○
73		ジアルジア症	全数	7日以内	○		
74		侵襲性インフルエンザ菌感染症	全数	7日以内	○		
75		侵襲性髄膜炎菌感染症	全数	直ちに	○		
76		侵襲性肺炎球菌感染症	全数	7日以内	○		
77		水痘 *9	全数	7日以内	○		
78		先天性風しん症候群	全数	7日以内	○		
79		梅毒	全数	7日以内	○		○
80		播種性クリプトコックス症	全数	7日以内	○		
81		破傷風	全数	7日以内	○		
82		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	全数	7日以内	○		
83		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	全数	7日以内	○		
84		百日咳	全数	7日以内	○		
85		風しん	全数	直ちに	○		
86		麻しん	全数	直ちに	○		
87		薬剤耐性アシネトバクター感染症	全数	7日以内	○		
88		R S ウイルス感染症	定点	翌週の月曜日	○		
89		咽頭結膜熱	定点	翌週の月曜日	○		
90		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	定点	翌週の月曜日	○		
91		感染性胃腸炎	定点	翌週の月曜日	○		
92		水痘	定点	翌週の月曜日	○		
93		手足口病	定点	翌週の月曜日	○		
94		伝染性紅斑	定点	翌週の月曜日	○		
95		突発性発しん	定点	翌週の月曜日	○		
96	ヘルパンギーナ	定点	翌週の月曜日	○			

No	感染症 類型	対象感染症	届出方法		届出対象		
			種別	時期	患者	疑似症 患者	無症状病原 体保有者
97	五類	流行性耳下腺炎	定点	翌週の月曜日	○		
98		インフルエンザ *10	定点	翌週の月曜日	○		
99		急性出血性結膜炎	定点	翌週の月曜日	○		
100		流行性角結膜炎	定点	翌週の月曜日	○		
101		性器クラミジア感染症	定点	翌月初日	○		
102		性器ヘルペスウイルス感染症	定点	翌月初日	○		
103		尖圭コンジローマ	定点	翌月初日	○		
104		淋菌感染症	定点	翌月初日	○		
105		クラミジア肺炎 *11	定点	翌週の月曜日	○		
106		細菌性髄膜炎 *12	定点	翌週の月曜日	○		
107		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	定点	翌月初日	○		
108		マイコプラズマ肺炎	定点	翌週の月曜日	○		
109		無菌性髄膜炎	定点	翌週の月曜日	○		
110		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	定点	翌月初日	○		
111	薬剤耐性緑膿菌感染症	定点	翌月初日	○			
112	新型インフル エンザ等 感染症	新型インフルエンザ	全数	直ちに	○	○	○
113		再興型インフルエンザ	全数	直ちに	○	○	○
114		新型コロナウイルス感染症	全数	直ちに	○	○	○
115		再興型新型コロナウイルス感染症	全数	直ちに	○	○	○
116	疑似症	発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経学的症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般的に認められている医学的知見に基づき、集中医療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの	定点	直ちに	-	-	-

\*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

\*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る

\*3 ウエストナイル脳炎を含む

\*4 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る

\*5 鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9）を除く

\*6 E型肝炎及びA型肝炎を除く

\*7 急性灰白髄炎を除く

\*8 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く

\*9 患者が入院を要すると認められるものに限る

\*10 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く

\*11 オウム病を除く

\*12 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の施行に伴う感染症発生動向調査事業の実施について  
（平成11年3月19日健医発第458号通知）

（令和3年2月10日健感発0210第6号改正）2021年2月13日施行



類型	感染症名	届出数												
		計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
四類	鼻疽													
	ブルセラ症													
	ベネズエラウマ脳炎													
	ヘンドラウイルス感染症													
	発しんチフス													
	ボツリヌス症													
	マラリア													
	野兔病													
	ライム病													
	リッサウイルス感染症													
	リフトバレー熱													
	類鼻疽													
	レジオネラ症	13			1	1	1	1	1		1	2	3	2
	レプトスピラ症													
ロッキー山紅斑熱														
五類	アメーバ赤痢	3		2						1				
	ウイルス性肝炎	4			1	1	1			1				
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	15		2	1	1	2	2	3	2	1	1		
	急性弛緩性麻痺													
	急性脳炎	11	1			2	3	1	1	1	2			
	クリプトスポリジウム症													
	クロイツフェルト・ヤコブ病	5	2		2			1						
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4		1				1	1				1	
	後天性免疫不全症候群													
	ジアルジア症	1			1									
	侵襲性インフルエンザ菌感染症													
	侵襲性髄膜炎菌感染症													
	侵襲性肺炎球菌感染症	10	1		2	3	3						1	
	水痘（入院例）													
	先天性風しん症候群													
	梅毒	48	4	4	4	5	1	7	1	4	7	3	1	7
	播種性クリプトコックス症													
	破傷風													
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症													
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症													
	百日咳	1	1											
風しん	1												1	
麻しん														
薬剤耐性アシネトバクター感染症														
新型インフルエンザ等感染症	新型インフルエンザ													
	再興型インフルエンザ													
	新型コロナウイルス感染症	13,976		340	541	661	555	493	2,035	7,380	1,775	111	27	58
	再興型新型コロナウイルス感染症													
指定	新型コロナウイルス感染症	2,445	2,111	334										
	計	16,701	2,133	695	572	689	575	520	2,065	7,402	1,796	132	44	78

\*新型コロナウイルス感染症は、令和3年2月13日の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正施行により、「指定感染症」から「新型インフルエンザ等感染症」に分類が変更された。

表1-17 全数把握感染症の年別届出数の年別届出数（2017年-2021年）

類型	感染症名	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
一類	エボラ出血熱					
	クリミア・コンゴ出血熱					
	痘そう					
	南米出血熱					
	ペスト					
	マールブルグ病					
	ラッサ熱					
二類	急性灰白髄炎					
	結核	215	177	167	155	133
	ジフテリア					
	重症急性呼吸器症候群					
	中東呼吸器症候群					
	鳥インフルエンザ					
鳥インフルエンザ（H7N9）						
三類	コレラ					
	細菌性赤痢	1	1			
	腸管出血性大腸菌感染症	24	24	19	20	24
	腸チフス		1		2	
	パラチフス					
四類	E型肝炎	7	7	9	4	4
	ウエストナイル熱					
	A型肝炎	5	9	6		1
	エキノコックス症					
	黄熱					
	オウム病					
	オムスク出血熱					
	回帰熱					
	キャサヌル森林病					
	Q熱					
	狂犬病					
	コクシジオイデス症			1		
	サル痘					
	ジカウイルス感染症					
	重症熱性血小板減少症候群					
	腎症候性出血熱					
	西部ウマ脳炎					
	ダニ媒介脳炎					
	炭疽					
	チクングニア熱					
	つつが虫病	2	1			1
	デング熱	1		3	2	
	東部ウマ脳炎					
	鳥インフルエンザ					
	ニパウイルス感染症					
	日本紅斑熱				1	1
	日本脳炎					
ハンタウイルス肺症候群						
Bウイルス病						



類型	感染症名	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
四類	鼻疽					
	ブルセラ症					
	ベネズエラウマ脳炎					
	ヘンドラウイルス感染症					
	発しんチフス					
	ボツリヌス症					
	マラリア					
	野兔病					
	ライム病					
	リッサウイルス感染症					
	リフトバレー熱					
	類鼻疽					
	レジオネラ症	7	14	15	13	13
	レプトスピラ症					
	ロッキー山紅斑熱					
五類	アメーバ赤痢	5	3	6	1	3
	ウイルス性肝炎	1			4	4
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	16	20	21	13	15
	急性弛緩性麻痺		3	1		
	急性脳炎	19	12	15	10	11
	クリプトスポリジウム症					
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	3	2	5
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	9	9	4	4
	後天性免疫不全症候群	5	3	6	2	
	ジアルジア症		1			1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	3	7	2	
	侵襲性髄膜炎菌感染症		1			
	侵襲性肺炎球菌感染症	25	25	12	5	10
	水痘（入院例）		3	5	1	
	先天性風しん症候群					
	梅毒	33	23	34	24	48
	播種性クリプトコックス症		2	2		
	破傷風	1	2	2		
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症					
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					
	百日咳	-	222	137	10	1
風しん	1	95	48	2	1	
麻しん			3			
薬剤耐性アシネトバクター感染症						
新型インフルエンザ等感染症	新型インフルエンザ					
	再興型インフルエンザ					
	新型コロナウイルス感染症	-	-	-	-	13,976
	再興型コロナウイルス感染症	-	-	-	-	
指定	新型コロナウイルス感染症	-	-	-	1,729	2,445

\*新型コロナウイルス感染症は、令和3年2月13日の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正施行により、「指定感染症」から「新型インフルエンザ等感染症」に分類が変更された。

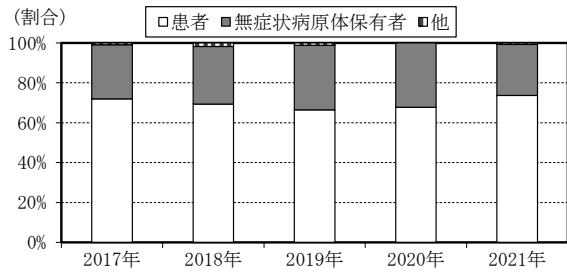


図1-1-1 結核 過去5年の診断類型の割合の推移

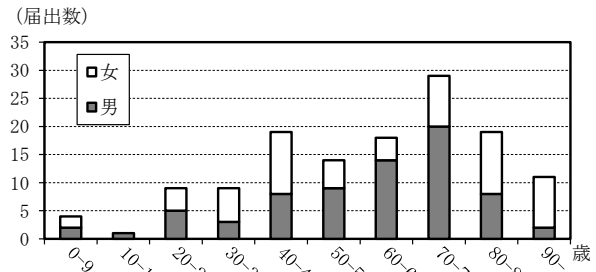


図1-1-2 結核 性別及び年齢階級別届出数

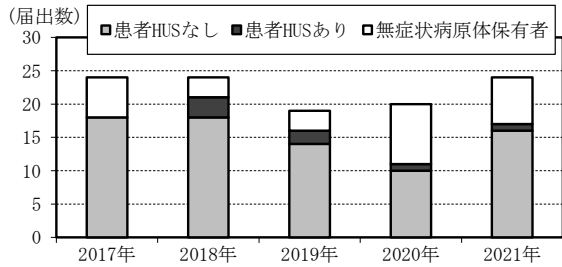


図1-2-1 腸管出血性大腸菌感染症 過去5年の類型別届出数の推移

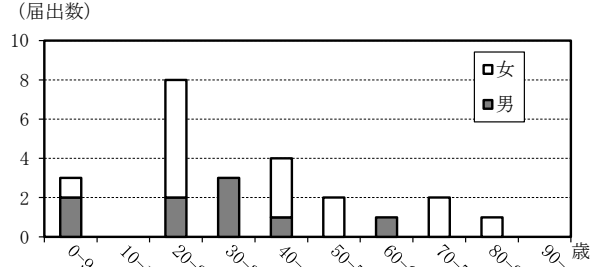


図1-2-2 腸管出血性大腸菌感染症 性別及び年齢階級別届出数

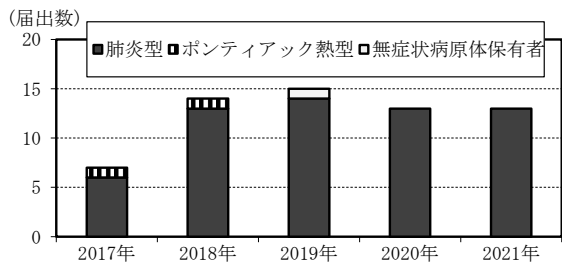


図1-3-1 レジオネラ症 過去5年の病型別届出数の推移

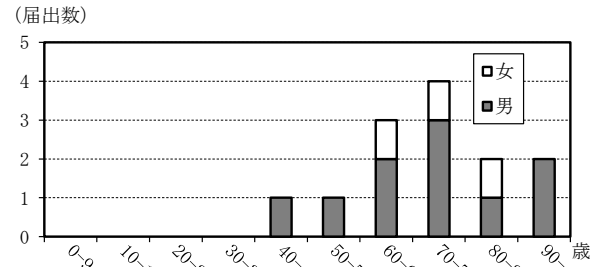


図1-3-2 レジオネラ症 性別及び年齢階級別届出数

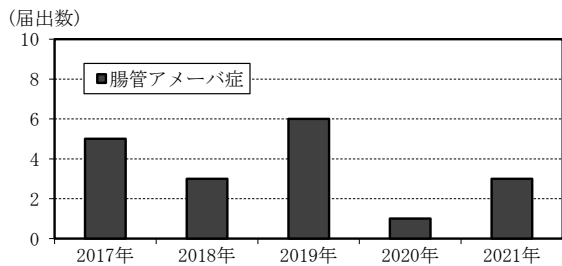


図1-4 アメーバ赤痢 過去5年の病型別届出数の推移

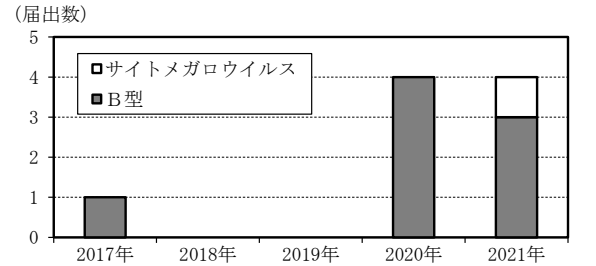


図1-5 ウイルス性肝炎 過去5年の病型別届出数の推移

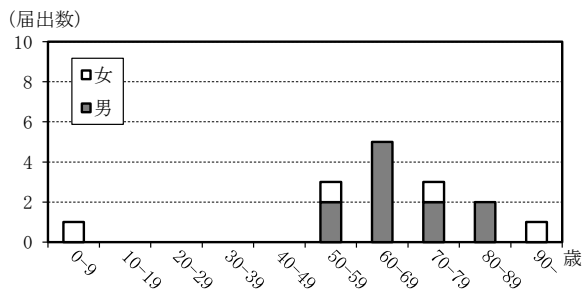


図1-6-1 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 性別及び年齢階級別届出数

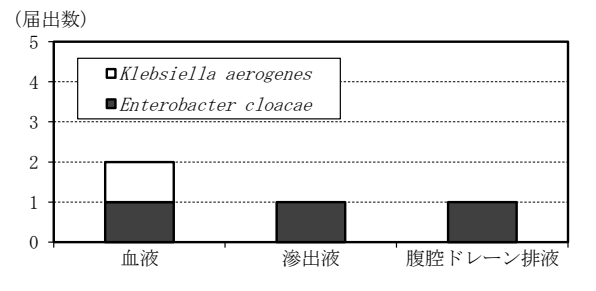


図1-6-2 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 無菌的であるべき検体種別及び検出菌

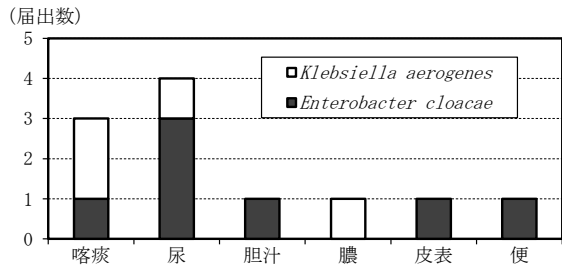


図1-6-3 カルバペナム耐性腸内細菌科細菌感染症 無菌的ではない検体種別及び検出菌

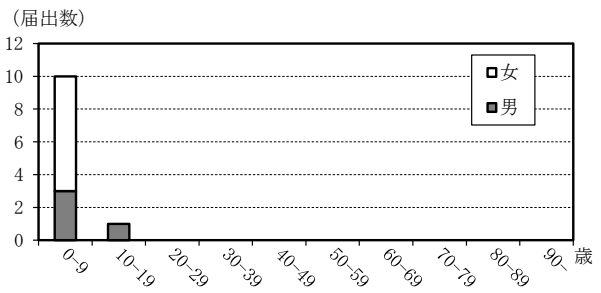


図1-7 急性脳炎 性別及び年齢階級別届出数

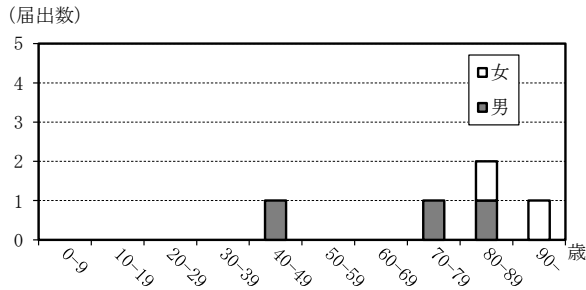


図1-8 クロイツフェルト・ヤコブ病 性別及び年齢階級別届出数

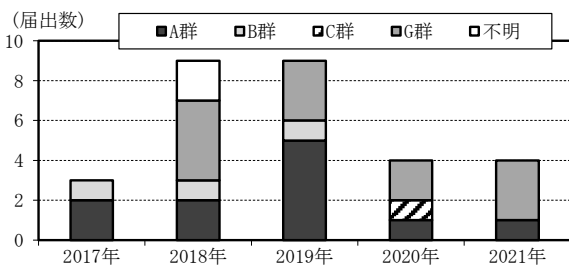


図1-9 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 過去5年の血清群別届出数の推移

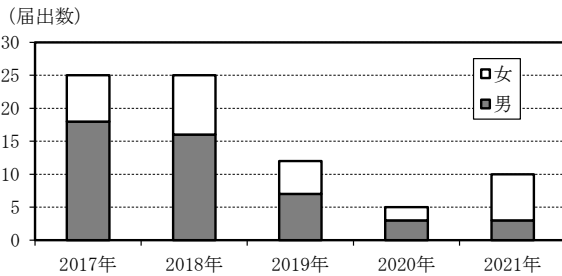


図1-10-1 侵襲性肺炎球菌感染症 過去5年の性別届出数の推移

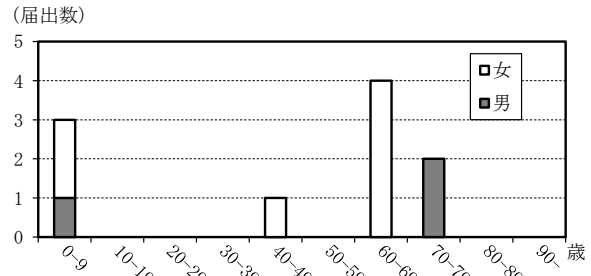


図1-10-2 侵襲性肺炎球菌感染症 性別及び年齢階級別届出数

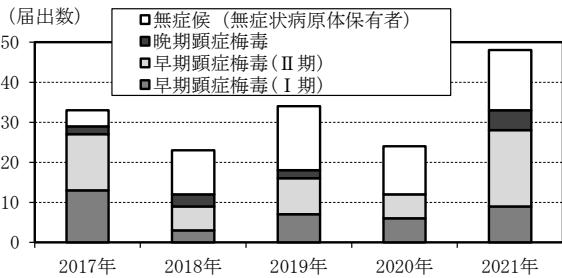


図1-11-1 梅毒 過去5年の病型別届出数の推移

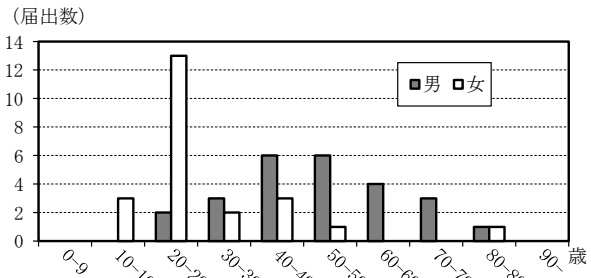


図1-11-2 梅毒 性別及び年齢階級別届出数

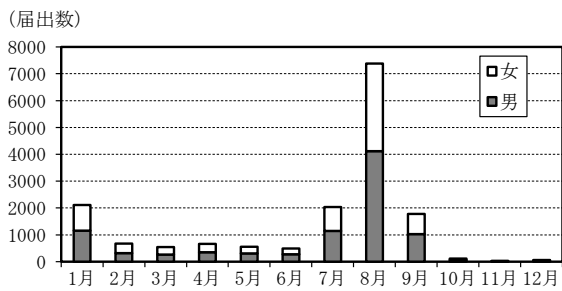


図1-12-1 新型コロナウイルス感染症 月別届出数

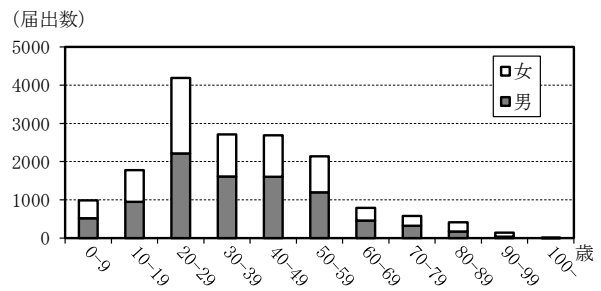


図1-12-2 新型コロナウイルス感染症 性別及び年齢階級別届出数

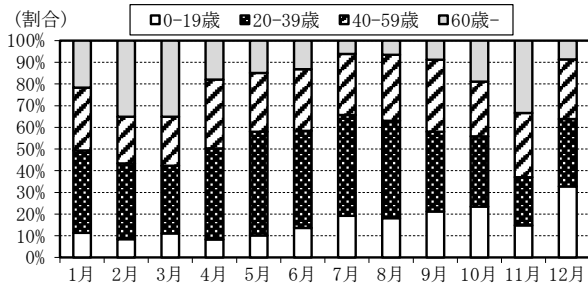


図1-12-3 新型コロナウイルス感染症  
月別届出数における年齢群別の割合

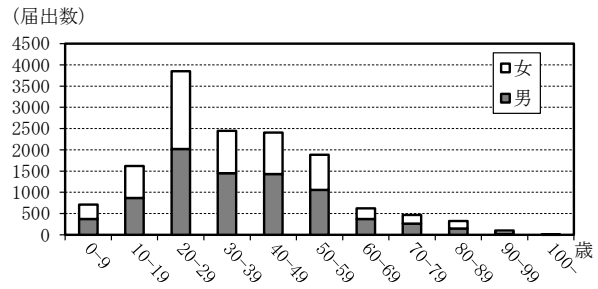


図1-12-4 新型コロナウイルス感染症  
性別及び年齢階級別届出数(患者)

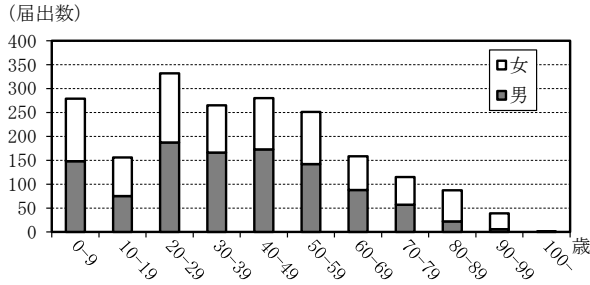


図1-12-5 新型コロナウイルス感染症  
性別及び年齢階級別届出数(無症状病原体保有者)

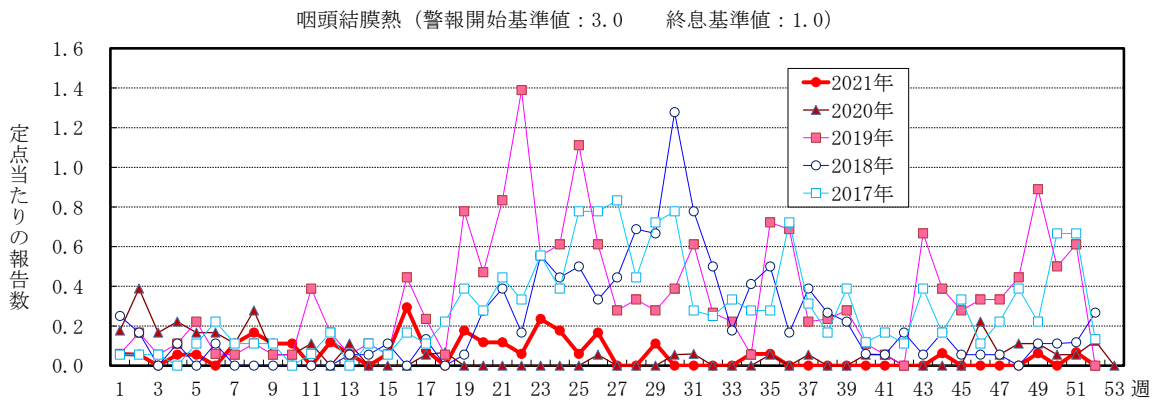
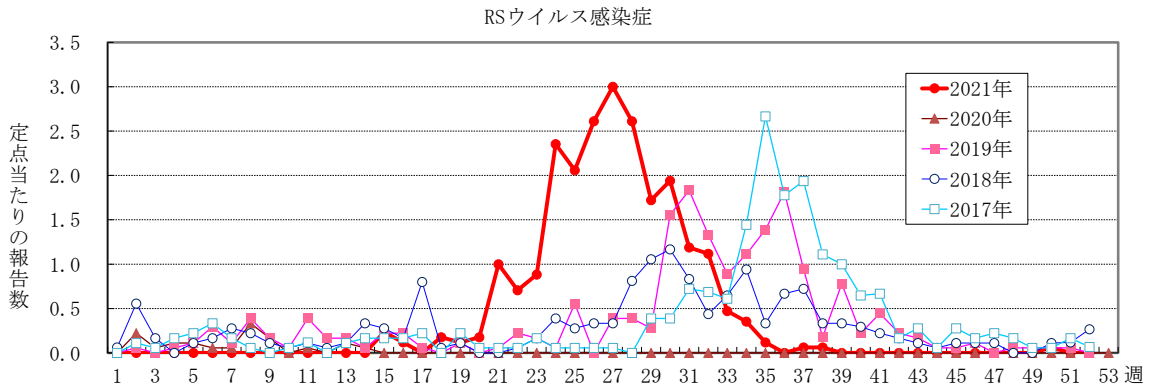


図2-1 定点把握感染症(小児科)報告数の年別推移(2017年-2021年)

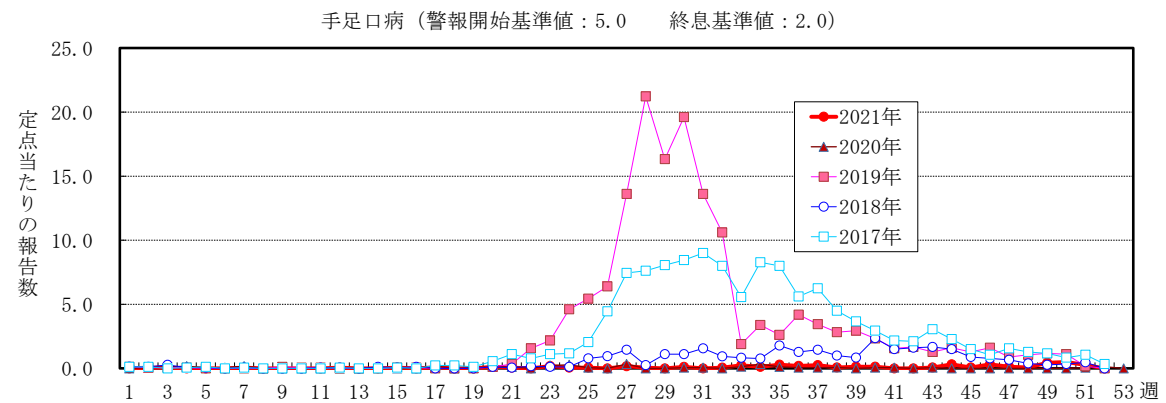
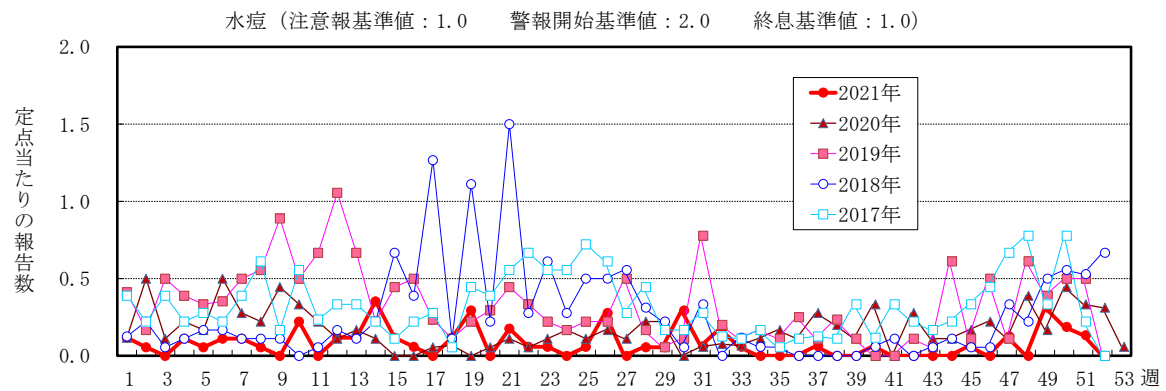
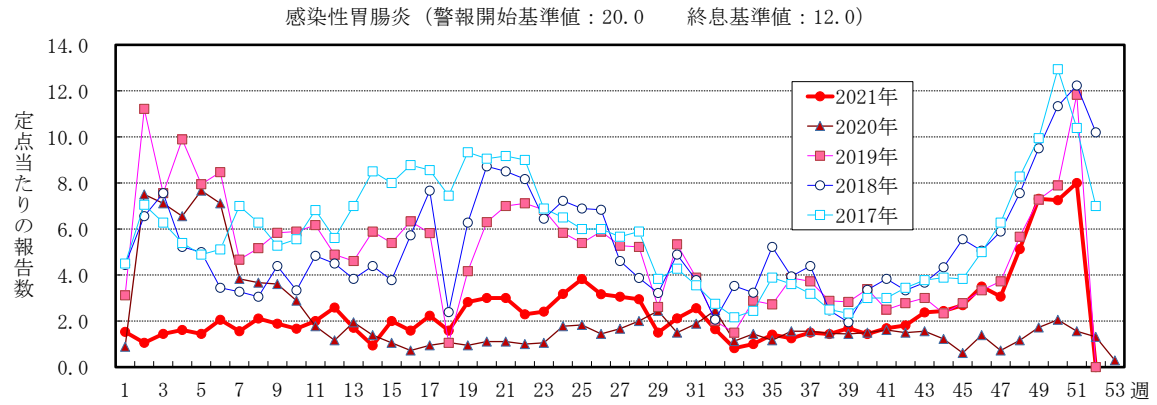
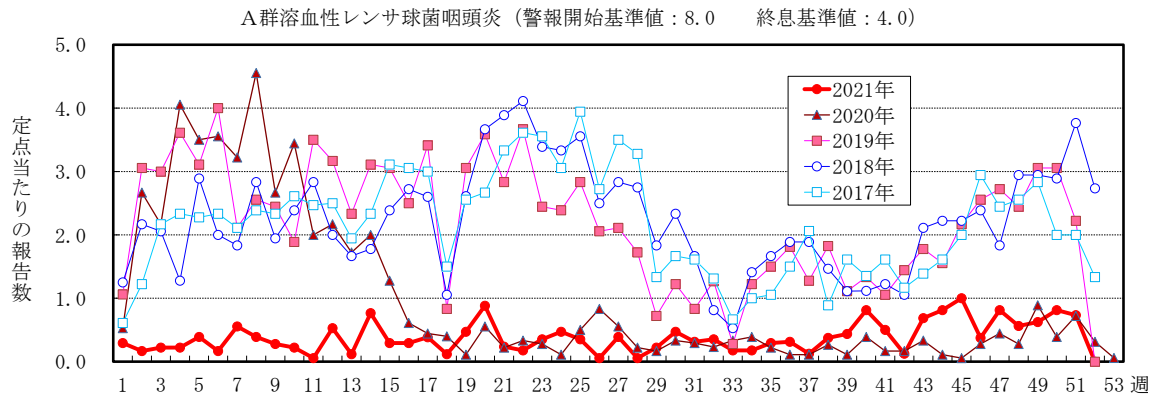


図2-1 定点把握感染症（小児科）報告数の年別推移（2017年-2021年）

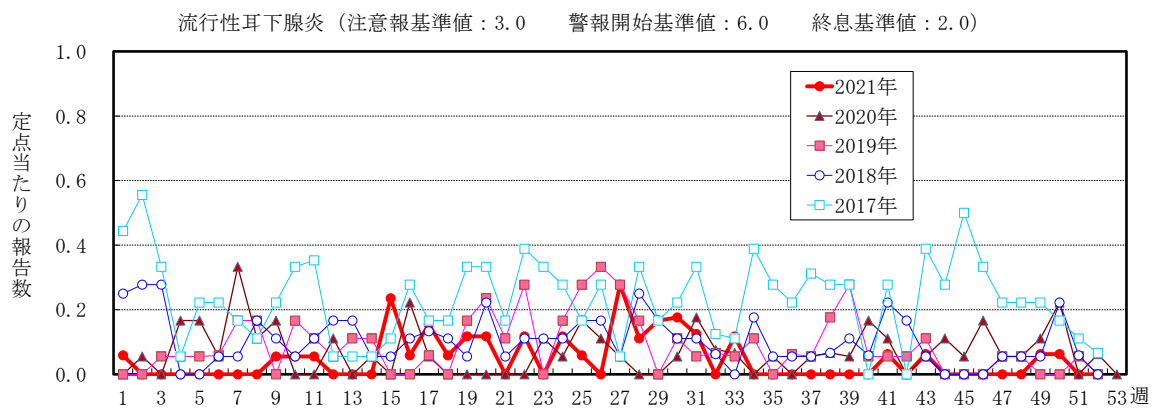
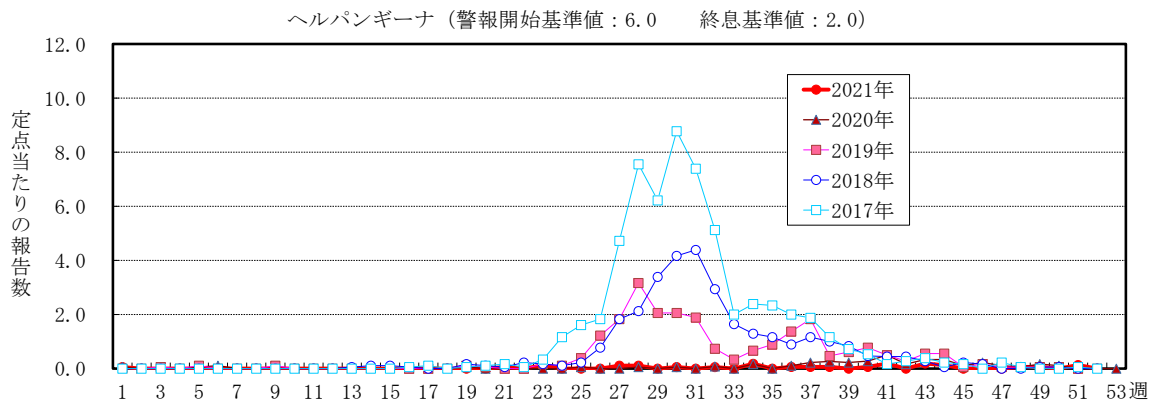
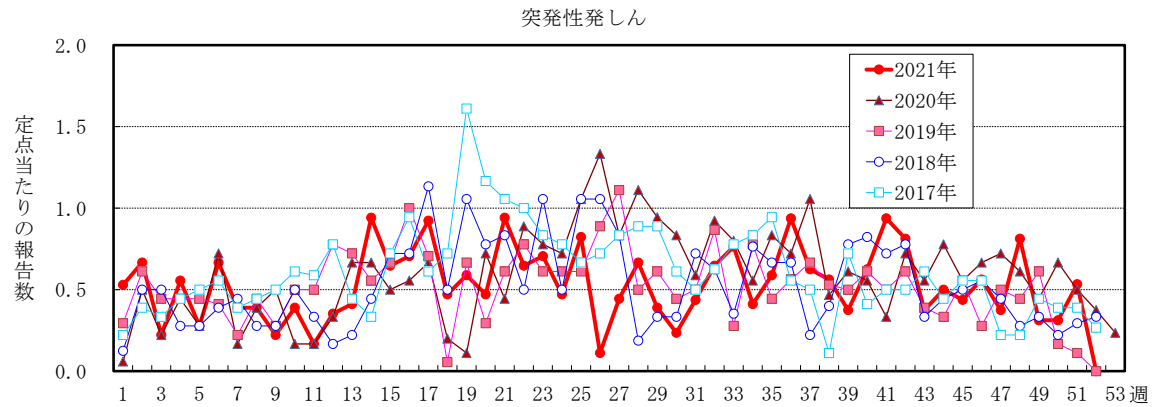
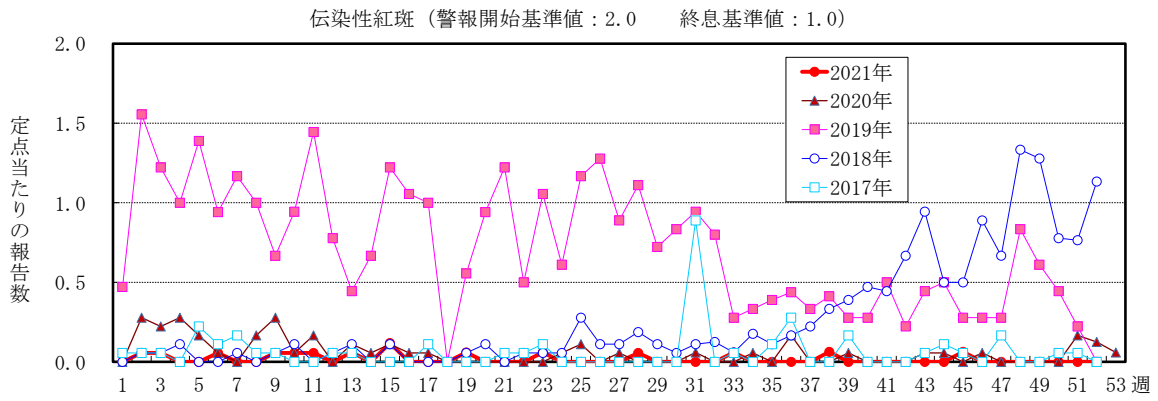


図2-1 定点把握感染症（小児科）報告数の年別推移（2017年-2021年）

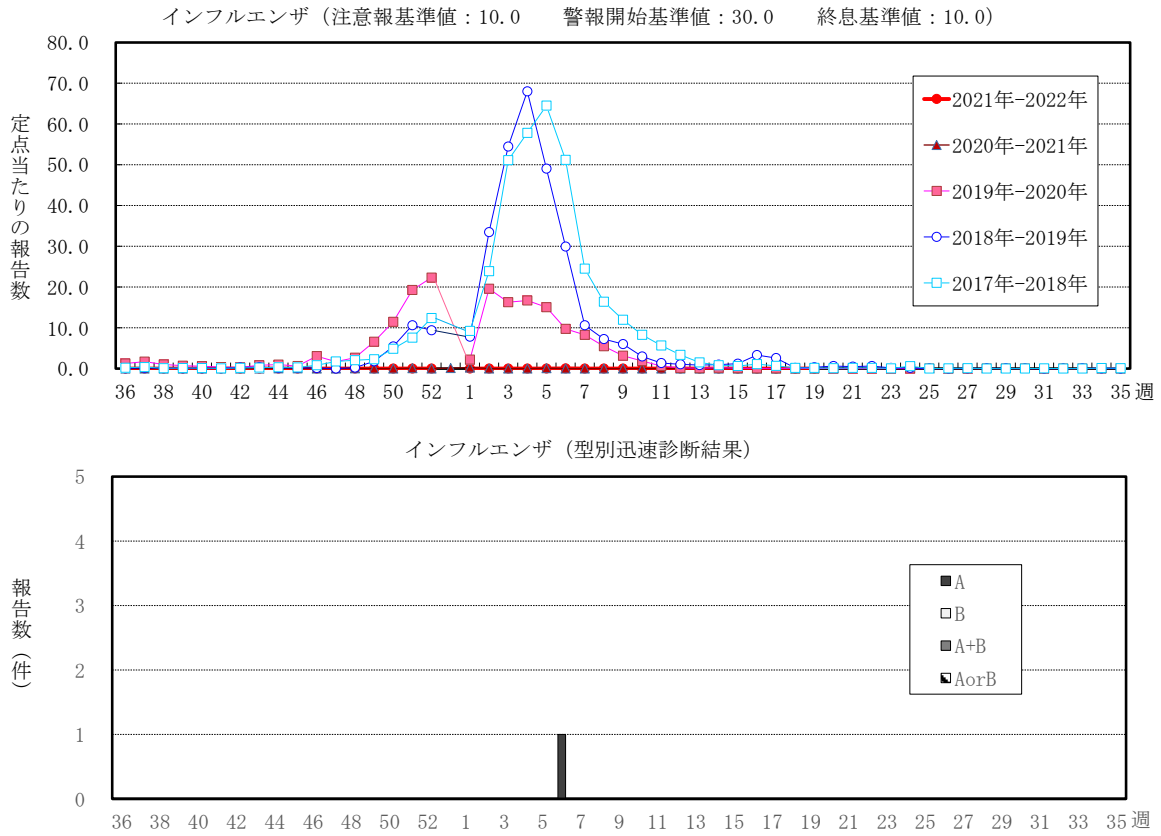


図2-2 定点把握感染症（インフルエンザ）報告数のシーズン別推移（2017年-2018年/2021年-2022年）及び型別迅速診断結果（2021年-2022年）

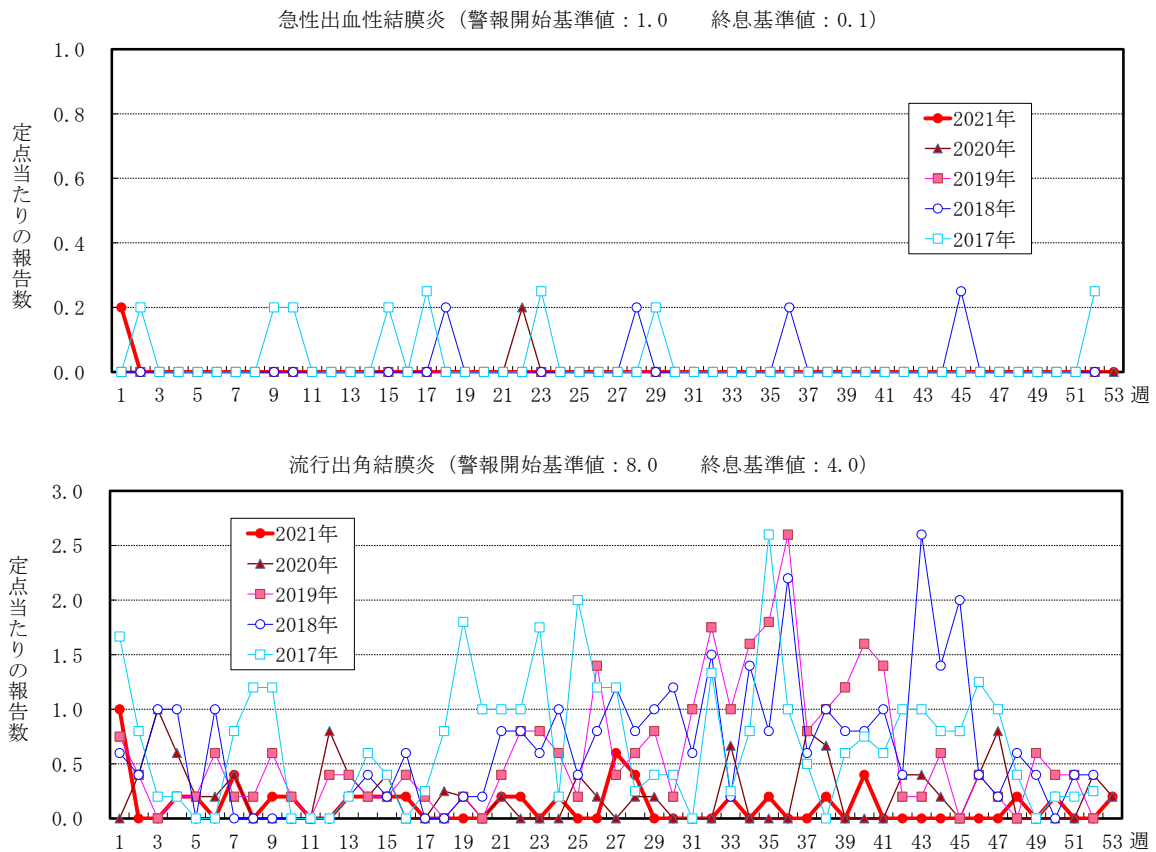


図2-3 定点把握感染症（眼科）報告数の年別推移（2017年-2021年）

表1-18 定点把握性感染症月別報告数（2021年）

種類	感染症名		月別件数												計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
五類	性器クラミジア感染症	計	117	120	115	110	144	117	146	140	122	139	138	110	1,518
			16.7	17.1	16.4	15.7	20.6	16.7	20.9	20.0	17.4	19.9	19.7	15.7	18.1
		男	110	112	110	103	127	103	134	125	113	129	132	103	1,401
		15.7	16.0	15.7	14.7	18.1	14.7	19.1	17.9	16.1	18.4	18.9	14.7	16.7	
	女	7	8	5	7	17	14	12	15	9	10	6	7	117	
		1.0	1.1	0.7	1.0	2.4	2.0	1.7	2.1	1.3	1.4	0.9	1.0	1.4	
五類	性器ヘルペスウイルス感染症	計	19	19	23	28	26	26	28	28	32	23	22	15	289
			2.7	2.7	3.3	4.0	3.7	3.7	4.0	4.0	4.6	3.3	3.1	2.1	3.4
		男	14	16	18	18	19	17	19	17	24	17	16	12	207
		2.0	2.3	2.6	2.6	2.7	2.4	2.7	2.4	3.4	2.4	2.3	1.7	2.5	
	女	5	3	5	10	7	9	9	11	8	6	6	3	82	
		0.7	0.4	0.7	1.4	1.0	1.3	1.3	1.6	1.1	0.9	0.9	0.4	1.0	
五類	尖圭コンジローマ	計	10	12	10	9	13	12	7	8	7	9	10	14	121
			1.4	1.7	1.4	1.3	1.9	1.7	1.0	1.1	1.0	1.3	1.4	2.0	1.4
		男	8	11	8	6	8	11	7	5	6	7	8	12	97
		1.1	1.6	1.1	0.9	1.1	1.6	1.0	0.7	0.9	1.0	1.1	1.7	1.2	
	女	2	1	2	3	5	1	0	3	1	2	2	2	24	
		0.3	0.1	0.3	0.4	0.7	0.1	0.0	0.4	0.1	0.3	0.3	0.3	0.3	
五類	淋菌感染症	計	37	33	40	45	46	46	50	47	46	45	52	43	530
			5.3	4.7	5.7	6.4	6.6	6.6	7.1	6.7	6.6	6.4	7.4	6.1	6.3
		男	31	33	38	42	40	42	43	44	43	45	51	41	493
		4.4	4.7	5.4	6.0	5.7	6.0	6.1	6.3	6.1	6.4	7.3	5.9	5.9	
	女	6	0	2	3	6	4	7	3	3	0	1	2	37	
		0.9	0.0	0.3	0.4	0.9	0.6	1.0	0.4	0.4	0.0	0.1	0.3	0.4	
-	非クラミジア性非淋菌性尿道炎	計	5	10	1	8	15	7	7	15	8	14	8	10	108
			0.7	1.4	0.1	1.1	2.1	1.0	1.0	2.1	1.1	2.0	1.1	1.4	1.3
		男	5	10	1	8	15	7	7	15	8	14	8	10	108
		0.7	1.4	0.1	1.1	2.1	1.0	1.0	2.1	1.1	2.0	1.1	1.4	1.3	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

上段：報告数、下段：定点あたりの報告数

表1-19 基幹定点把握感染症月別報告数（2021年）

種類	感染症名		月別件数												計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
五類	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
五類	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	計	7	2	2	0	1	3	7	1	9	3	3	2	40
		男	1	1	0	0	1	0	5	0	7	3	2	1	21
		女	6	1	2	0	0	3	2	1	2	0	1	1	19
五類	薬剤耐性緑膿菌感染症	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

定点あたりの報告数



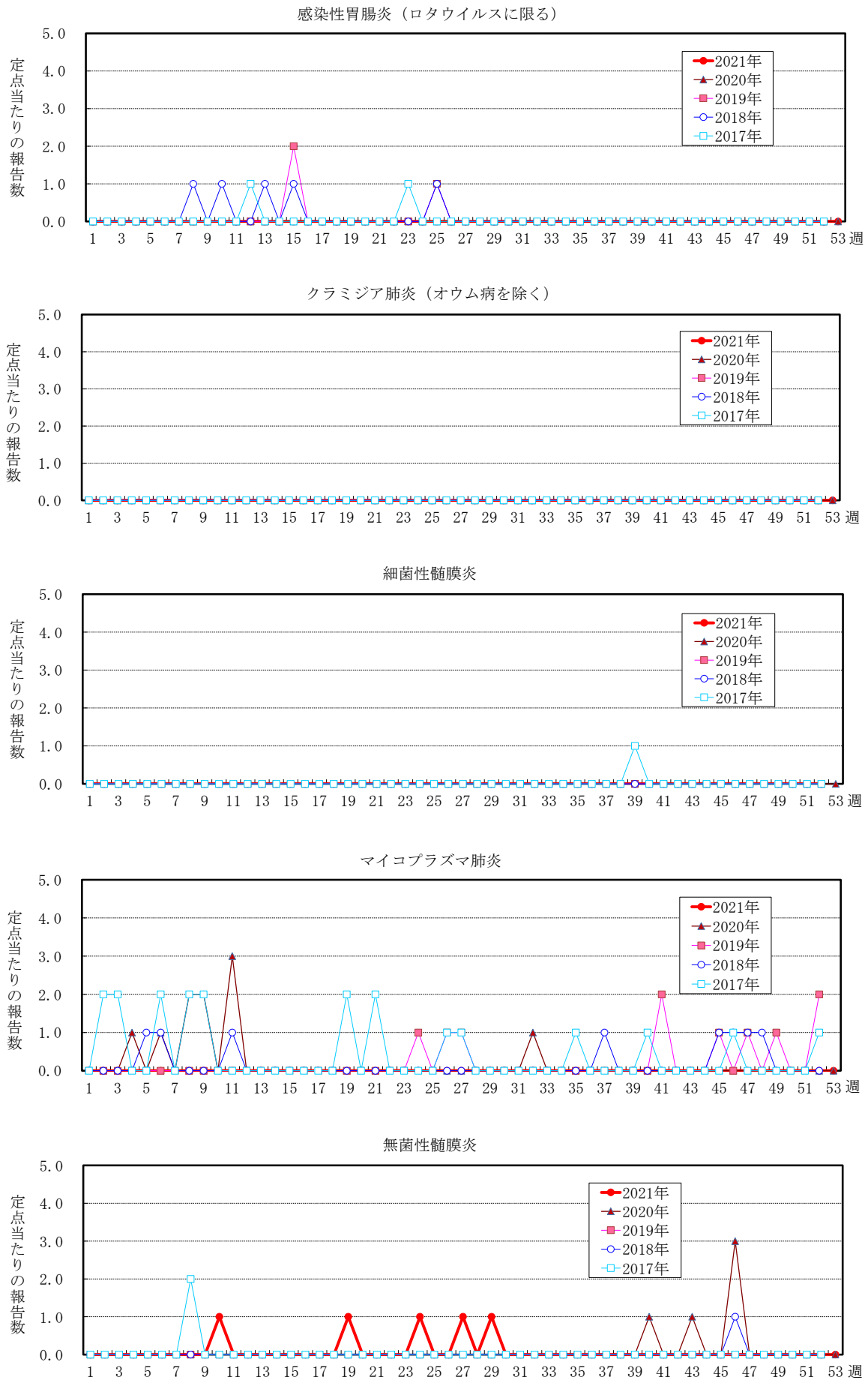


図2-4 定点把握感染症（基幹）報告数の年別推移（2017年-2021年）